



今、木とかかわりを持つということ

木がいつも身近にあった日本人の暮らし。私たちは、その心地よさをあらためて考えることもなく、21世紀を迎えてしまいました。気がつけば、山は荒れ、街はコンクリートとガラスで覆われています。「木はいいね」と言いながら、木の文化を見失いつつある。それが今の日本です。

木愛の会は、建築やまちづくりの立場から、もう一度木を見つめ直し、街に、暮らしに、木を取り戻していこうと考えています。地球温暖化が叫ばれる今、日本の森林の再生、国産材の活用、そして「第二の森林」と呼ばれる木の建物に大きな関心が寄せられています。この機会に、それぞれの立場で、一人ひとりが木とのかかわりを結び直すことが大切です。



これからの木の建築を考える

木愛の会は、「木造都市」を構想しています。

一般的に木造建築というと、多くの人は伝統的建築や木造住宅を思い浮かべます。しかし日本では、2000年の法改正により木造の耐火建築物が可能になり、木造建築の階数制限がなくなりました。木質構造材の技術開発も進み、高層ビルでも技術的には可能なレベルまでできています。法的、技術的問題はクリアされ、伝統構法から新技術まで、「木の建築の可能性」は大きく広がったのです。しかし現状では多層の木造建築はほとんど建てられておらず、木の建築は前途多難です。こうした中、木愛の会は専門性を生かし、木の建築の新しい展開を導き出したいと考えています。

木造都市をイメージする



住宅でも、オフィスビルでも、公共建築でも、建築物に持続可能な建築材料である「木」を使う。これが木造都市の大前提です。

国産材を使うことで山を守る、木の暮らしの記憶をつなぐ、調湿、保温、断熱性など木のすぐれた特性を生かし人々の心にぬくもりを与え、ふれあいのある空間をつくる。まずは、病院や学校を木の建築に、そして街のあちこちに、そんな木の建築が少しずつ増えて面となる。それに触発されるように、まちに緑が広がっていく…。

木造都市はきっと、今までとはちがう、やわらかで落ち着いた都市景観を生み出します。地球温暖化が叫ばれる今だからこそ、その実現に向けて取りくんでいきます。

